

平成31年3月26日
京都府農林水産技術センター農林センター

暖冬及び今後の気象動向に対応した 農作物の技術対策

農業技術情報（第6号）

大阪管区气象台発表の1か月予報（3月23日から4月22日）及び3か月予報（3月～5月）では、気温の高い確率が40%又は60%と見込まれています。ついては、農作物の生育が早まることが想定され、軟弱徒長や病害虫の発生に加え、寒気の一時的な南下による凍霜害の発生が懸念されます。

今後の気象状況と作物に応じた管理ができるように、以下の事項を参考に必要な対策を講じてください。

1 麦類

- ①暖冬により平年に比べ生育が進んでおり、今後も全国的に平均気温が高い傾向で推移することが予想され、生育が進んだ状態で寒気に遭うと、幼穂凍死による遅れ穂の発生、出穂期の凍霜害による不稔の発生が懸念されます。遅れ穂や不稔の穂には赤かび病が発生しやすいので、適期防除に努めてください。
- ②遅れ穂の発生は収穫時に未熟粒の混入の恐れがあるため、乾燥・調製を丁寧に行ってください。

2 茶

(1)霜害の予防対策

- ①動き始めた新芽に寒の戻りが影響する可能性があるため、霜害の発生しやすい茶園では、霜注意報等に注意し、棚等の寒冷紗被覆、防霜ファンやスプリンクラー等の凍霜害防止対策を行います。

(2)霜害発生後の被害軽減対策

- ①被害にあった場合、2葉以上開葉していた茶園では、摘採時に被害葉が混入しないよう整枝を行います。ただし、樹勢が弱い茶園では、浅い整枝に留めてください。
- ②被害があった茶園では、カンザワハダニの発生が多くなる恐れがあるため、観察に努め、防除を徹底してください。

3 果樹

(1) 凍霜害の予防対策

- ①開花の前進化が見込まれており、開花期から幼果期における降霜及び予期しない低温による凍霜害の発生が懸念されることから、霜情報等に注意してください。
- ②降霜が予想される場合は、燃焼法（空気対流によって霜を防ぐ）や夜間散水スプリンクラー等で対処してください。
- ③燃焼法で防ぐ場合は、周辺環境に十分注意し、固形燃料や重油、灯油など、ばい煙発生の少ない燃料を使用してください。
- ④土壌が乾燥している場合には、日中の散水も有効で、温度の高い時間帯に散水を行い、地中への蓄熱につとめてください。
- ⑤凍霜害の発生が懸念される場合は、摘蕾・摘花を控えめに行います。

(2) 霜害発生後の被害軽減対策

- ①霜害発生後、被害を受けた枝は、その後の生育を見て、枯死した部分をせん定してください。
- ②蕾や開花中に霜害を受けた場合には、残った花への人工授粉を徹底し、結実の確保に努めてください。
- ③幼果が霜害を受けた場合は、果実の状態を十分観察した上で摘果してください。
- ④結実量が少なく、樹勢が強くなるおそれのある樹では、副芽や不定芽などから発生した徒長枝は、翌年の結果枝になる枝を除いて整理してください。
- ⑤結実量が少ない樹では、枝葉が過繁茂になりやすいため、結実量や樹勢に応じて施肥量を減らしてください。

(3) 栽培管理

生育の前進による品種間の開花時期の不揃い、訪花昆虫の活動低下による受粉の不良等による結実不良が懸念されますので、適切な時期に人工授粉を行い、結実の確保に努めてください。

(4) 病害虫防除

気温が高めに推移することで病害虫の早期発生が懸念されます。

- ①病害虫の発生状況や病害虫発生予察情報等に留意し、適時適切な防除に努めてください。
- ②罹病部位の除去等、ほ場衛生の管理に努めてください。